

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・事業所の理念と基本方針がある。特に中川村に生活する認知症高齢者 - 家族 - 地域が必要とする諸活動に専心できる社会福祉実践共同体の確立を目指す。	・理念の内容について、スタッフが話し合いより理解を深め実行できるよう努めたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・スタッフミーティングや研修会等で、理事長やホーム長の目指すものについて話があり、スタッフ相互での意見交換が重視され共有できるように努められている。	・更に理念を具体的なケアの中で実践してゆけるように努めたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	・入居者の家族が近接会社から見ている事をチャンスとして、利用者家族の利用者に対する態度の変化によって、認知症への理解に努めている。	・家族会(年3回)・地区集会・地区総会等への出席の機会を活用している。 また、3年前から麦の家主催の地方の地域福祉実践集会を開催している。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・こちらから挨拶して、親しみやすい関係ができるように心掛けている。 ・必要に応じて食事介助や雪かきのボランティア訪問がある。	・入居者と共に近所を散歩したり、買物などに出かける事により、近所の方と顔なじみになるようにしている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・ふれあい福祉広場や、中組の祭り、村の祭りに参加して交流できるようにしている。 ・定期的な保育園・小学校・中学校との交流。 そこでの行事や授業参観への参加を入居者と共に行っている。	・これからも地域の行事や意見交換の場に参加して、地域の方と交流できるようにしたい。

麦の家・ぶどうの木()

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・地区民生委員会やいきいきサロンの集まりに、経営・管理者が出かけ、まず地域の人々の福祉的ニーズについて学び、具体的な実践につなげられるようつとめている。		・入居者と地域の交流だけでなく、スタッフや他の福祉事業所の専門性を活かした支援が地域の高齢者等にできるよう更に計画をすすめたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・課題・問題・失敗から学ぶ姿勢をもつことで入居者の支援に対して振り返ることができている。 ・評価することにより、足りない部分が見え、これからの仕事への取り組みに活かすことができる。		・自己評価を行って取り組んでいることを整理し、できていないことについては改善できるようにチームの中で話し合うようにしている。 また、会議の記録をとり、次の会議で検討確認しあう事を重視している。
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・麦の家では、まず村特有のニーズ・文化価値・考え方を学ぶこと、その上にたって理念から実践職場の実状と課題についての理解を、メンバーに深めてゆく段階にある。		・推進会議のメンバーが会議の折だけでなく、もっと頻繁に現場に出かけて職員と話し合う機会を作っていきたい。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・同上。		・村役場の担当者と村内外の福祉事業所等現場職員との間で、グループホームについて様々な現状を取り上げ、話し合う機会を試みたい。 ・見学のレベルにとまらず相互に学びあうプログラムを作ってゆきたい。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・事例研究会で権利擁護事業について学ぶ機会を設けている。		・権利擁護事業について資料を提示したり、研究会への参加の機会を継続的に設けたい。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・家族入居者の友人らによる頻繁な訪問を入居契約として決めている。 ・仕事上で悩んでいることをスタッフの中で相談したり、リフレッシュすることで気持ちにゆとりを持つ職場環境に努力している。		・高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ちたい。

麦の家・ぶどうの木()

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>・入居者の方一人ひとりに合った説明方法や内容説明を行い、数回の話し合いの機会を持ち納得していただいている。</p>	<p>・充分納得・理解できるまで説明・話し合いをした上で契約につながるよう努めていきたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・ケアの仕方・雰囲気・食事等への入居者の声・思いをコミュニケーションの中で話し合うようにしている。</p>	<p>・入居者や家族が不満・苦情・要望を言えるように機会を設け、特に職員と家族関係が築けるよう更に努力していきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・ケアプラン担当者を中心に、介護主任及び事務担当職員と共に、入居者の様子を伝えることができている。</p>	<p>・家族に入居者の健康状態だけでなく、日常のケアの中で印象に残った一言や、一緒に笑い合ったこと等を伝えていくようにしている。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・家族から直接不満・苦情を聞くことについては、よりよい関係形成が求められる。家族会への出席はほぼ全員であり家族の訪問も入居時よりも多くなる傾向にある。</p>	<p>・家族から要望や苦情・不満を言ってもらえるような関係作りをしていきたい。そのためにも家族が訪問した際に職員とゆっくりと話し合える機会をもっと作る必要がある。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>・年に1度紙面でのアンケートがあり、加えて個人あるいはグループでいつでも話すことができるように時間を作っている。</p>	<p>・より積極的に意見や要望を伝えたり、相談できる環境を作っていきたい。</p>

麦の家・ぶどうの木()

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・スタッフの人数や改善してほしいことについて、管理者や主任などと相談することができる。		・より入居者の生活がよりよいものになるよう意見を伝えたり、相談できる環境を作っていきたい。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・職員が突然の病気や事故で欠勤した場合、他の職員らの自発的な努力による補充が成されている。 ・同時に運営管理者が緊急に補充職員を充当している。		・入居者中心のケアが行えるように、職員相互の協力調整によってカバーしたい。
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・現任訓練として個人スーパービジョン及びグループスーパービジョンの機会がある。 外部研修についても内容を検討した上で可能な限り利用している。		・特に担当入居者のケアについてのスーパービジョンについて、より主体的に利用したい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・事例研究会を行い、地域の他の事業者の意見を聞いたり、勉強・交流している。		・他の事業者の意見・話を聞くことで、担当者の仕事に対して振り返る機会となる為、事例研究会への参加を積極的にすすめたい。 ・相互訪問の機会を持ち、そこから学び、麦の家のサービスを向上させていきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・職員達が自由に介護主任・管理者・運営者・第三者のいずれにも相談することができるよう、時間を作っている。		・仕事の事で悩んでいること、困っていることがあれば、主任や管理者に相談して、入居者との関わりに影響が出ないよう環境づくりに努めたい。

麦の家・ぶどうの木()

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・勤務表の作成をはじめとして、介護日誌・ケアプラン・記録各種プログラムについて職員(全体・小集団)の検討会議がある。		・職員各自が目標を立て、課題を達成できるよう取り組みたい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	・ケアプラン担当者を中心に、本人の意向を受けとめる努力をしている。 ・自立度が高い方とのコミュニケーションの方法についてより学びたいと感じている。		・入居者自身からよく聴くことをより意識し、その気持ちを受け止められるよう、すぐに答えられない方、言葉の出にくい方等に対しても諦めず聴くようにしたい。 ・居室などで聴く機会を作りたい。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	・家族とのコミュニケーションが上手にとれず、挨拶だけになっているときがある。		・家族が困っていることを受けとめられるよう、信頼関係を深めてゆきたい。
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・初期段階における相談は、主任や管理者が中心に行っている。		・本人にとって必要なサービスは何か見極めることが難しいが、他職員の考え方を踏まえながら、主体的な対応に努めたい。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・利用して頂く前に「お試し」として、日帰りや宿泊をし、雰囲気を知って頂いている。 ・本人と家族にそれぞれ意見や印象を聴き、麦の家の理念やケア方針を説明し、三者が納得した上での利用となるよう相談している。		・施設の居住空間や構造も含め、本人に合うのか、また職員がどう対応できるか等、本人の望む生活ができるかどうかを職員全員で話し合い、アセスメントし決めてゆくようにしている。

麦の家・ぶどうの木()

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>・本人が生活の中心となるように、日常生活の過ごし方に工夫が必要と感じている。</p> <p>・個別及び集団におけるコミュニケーションの機会を利用して、入居者同士・入居者と職員の相互関係を深める努力をしている。</p>	<p>・日々の関わりの中で、喜怒哀楽を共にし、支え合いの関係で一緒に過ごしてゆきたい。</p>
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>・家族とのコミュニケーションにおいては、こちらからの話を中心になってしまうことがあるが、家族(友人)の積極的な訪問が入居条件にもなっており協働関係の大切さを双方が認識している。</p>	<p>・家族が職員に対して率直に言えるような関係が築けるよう積極的に取り組みたい。</p>
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>・本人が家族とどのように暮らしてきたのか、特に入居前の本人の様子を知る事で現在の支援の方法を検討していくことの重要性を感じている。</p>	<p>・本人と家族がより良い関係を築き時には再生していけるよう支援したい。</p>
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>・中山間地域と言う施設の立地が集落と離れた場所にあること、また、入居者の家族・友人らの高齢化・アクセスの問題等により関係の継続は難しいがその中で可能な事を工夫している。</p>	<p>・馴染みの場所へ出かけることができるような取り組みをしたい。</p> <p>・また馴染みの人との関係が継続できるよう交流の体制を作りたい。</p>
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>・生活共同棟において、利用者同士が自然と関わりを持てるような環境作り(音楽・新聞や絵本の利用等)を行っている。</p>	<p>・グループ構成なども意識しながら、入居者同士が関わり合えるように、これからも工夫したい。</p>

麦の家・ぶどうの木()

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・退居された家族の相談や、入居者本人の生活状況の把握を、主任や管理者を中心として行っている。 ・本人が亡くなられた場合であっても、家族が職員として勤めたり、旅行時の同行など法人の取り組みに協力して頂いている。		・入居されているその期間だけサービスを提供するのではなく、退居された後においても本人の生活の質を高められるようなサービスや情報提供等具体的支援を行ってゆくことを目指したい。
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・本人の意向を把握することを努めている ・困難な場合はご家族の意向を聞くと共に、本人の状況や身体状態、生活暦を踏まえて検討している。		・本人本位に検討していくことを目指し、本人の将来やターミナル・死についての希望や考え方を聞き、積極的に家族と話す機会を持てるよう取組みたい。
34 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・センター方式などの記述方法を用いながら、一人ひとりに対する生活歴や暮らし方の把握を行っている。 ・これまでのサービス利用の経験やその感想・家族関係等の把握は充分できていない。		・日々の生活・関わりから、絶えず暮らしの把握をし、ケアに充分活かしていきたい。 ・またサービス利用の経過を理解し、これまでどの要に生活してきたかを知り、ニーズや本人の意向の把握につなげていきたい。
35 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・心身状態や有する力については把握できているが、一人ひとりの一日の過ごし方については把握が不十分である、総合的に把握するところまで至っていない。		・入居間もない方の把握と情報共有はできているが、入居してからの年数が長い方に対しても状況の変化を捉え、心身状況・できることの把握と共に、情報共有を充分に行っていくことで一人ひとりの総合的な把握を目指す。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・本人や家族と話し合うことはあるが、必要な関係者(各入居者の主治医)、看護職員の意見を反映した介護計画の立案には至っていない。		・介護について協働関係が充分でない家族へのアプローチ(介入)や、こちらからの情報提供の方法に工夫を行っていく。 ・医師や看護職員との連携を密にしながら、アドバイスや意見をより介護計画に反映できるよう取り組む。

麦の家・ぶどうの木()

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・介護計画の期間に応じて見直しを行っており、入退院などによる心身状態の変化があった時は、その都度話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		・今後も期間に応じて見直しを行っていくと共に、入居者の変化に合わせた介護計画の作成についてはニーズに即応できるよう状況に合わせてより迅速に行っていきたい。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の様子やケアの実際を個別の記録に残し、実践に反映できている。 ・特に配慮の必要な人について全員で情報共有しているが、安定している人については日々のケア、過ごし方が同じになってしまっているため、工夫や意識の共有が必要と感じる。		・記録の仕方を職員がより理解し、ケアの実践・結果・気づきを記入し、翌日に活かし、積み重ねを介護計画に活かしていけるように取組みたい。 ・情報の共有の方法について、職員全員で意識をしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・グループホームとして支援可能な入居者にとって、必要な支援を行っている。 ・家族の状況を受容しながら、入居者本人と家族のつながりをシステムとして意識し、家族と共に本人を支えるケアを目指している。		・今後もグループホームで可能な支援、本人にとって必要な支援を行う。 ・グループホーム入居により本人と家族のつながりが薄くならないよう、職員と家族が共に本人を支えるよう取組み、その為に家族の状況や要望をアセスメントする。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・地域で行われている”いきいきサロン”や、図書館に出かけていく機会を作っている。 ・ひとりで外出行動のある方については、交番に緊急時の協力を依頼している。		・地域の中の文化、教育機関の利用や外出の機会を多くもつことで、本人の意向を尊重できるようにしていきたい。 ・現在の制度上の職員体制のみでは限界があるように感じるため、ボランティアとの協力体制が構築できるようにしていきたい。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・福祉用具のサービス業者と協力し、サービスを利用する為の支援をしている。		・近くのグループホームや宅老所等と交流する機会や協力体制をつくりたい。 そのために相互に刺激し合いたい。

麦の家・ぶどうの木()

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・金銭管理の必要な方について、社会福祉協議会と協力している。		・必要に応じた協力・協働を行っていきたい。
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・グループホームのかかりつけ医を中心としながら本人及び家族の希望を聞き、受診支援を行っている。 ・月1回、又は必要時にかかりつけ医の往診を受けられるよう、協力体制をとっている。		・家族と医療機関、グループホームが相互に理解し、協力していけるようにしたい。 特に家族の率直な意見を聴けて行くことが大切である。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・認知症をはじめ各専門医の受診が必要な方について、診断や治療を受けている。		・職員が医師から医療面の話を聞く機会を持ちたい。 ・日頃から各専門医との関係を作っておくことに更に努めたい。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・グループホームの看護職員や、地域の診療所の看護師と相談でき、協働関係ができている。 診療所の休日であっても、指示や往診が得られている。		・看護職員、介護職員との協働をより意識していきながら、健康管理や医療面の知識の充実・理解に努めたい。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・受け入れ態勢の調整により、早期退院が困難な場合があるが、できるだけ早期退院に努め、病院関係者と情報交換や相談を行っている。		・個人情報の守秘義務により、グループホームから情報開示、情報提供を求めることが難しい面があるが、医療機関と協働を考えながら、家族との連携・相談も更に努力していきたい。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・終末期の意向について、家族と話し合っている。 ・本人及びその代理人・医療機関・グループホームが話し合い方針を共有できるよう努めている。		・更に終末期や死を、本人・家族がどのように考えているかを率直・自由に話し、思いを共有していくことができるように努めたい。

麦の家・ぶどうの木()

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・医療の依存度の推移と関連して、グループホームの「できること、できないこと」をアセスメントし、家族にも説明し話し合いを行うようにしている。 ・終末期のケアにおいて、かかりつけ医や看護師との連携体制をとって支援を行っている。		・グループホームと医療機関、家族の連携と共に、グループホームの職員が終末期ケアのあり方や意識を共有してチームを作り上げる必要がある。
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・管理者や主任を中心に初期面接を行っており、グループホーム職員はそこから情報共有をしている。また3ヶ月ほど本人が安定するまでの期間における言動・行動を情報共有して、ケアに活かし、支援を行っている。		・ショートステイで利用される方もいらっしゃるの で、利用期間が短い方であっても必要かつ充分な情報を得、居住場所としての受入や対応を行って いきたい。
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・誇りやプライバシーを損ねないよう言葉掛けや対応を行い、職員間でも注意しあうようにしている。 ・個人記録の保管と利用のしやすさについては、今後の課題といえる。		・入居者との関わり年数が長くなることで、誇りやプライバシーへの対応の意識が薄れないよう、専門職倫理を意識し、基本的な職務として徹底したい。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・入居者の個別的な認知の力に合わせた説明については、更に工夫が必要と感じる。 ・本人が自分で決める・納得できるように働きかける支援については、説明したことについて本人が理解できているのか。 繰り返すところまではできていないように感じる。		・日々の過ごし方において、本人の思いや希望を表さないことも多いと感じるので、“わかる力”に合わせたり、また思いを伝えることが難しい方であれば、表情・態度・行動等からの読み取りを更に行っていきたい。

麦の家・ぶどうの木()

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・一人ひとりのペースより職員のペースによって日々が展開してしまっていて、充たされる必要のあるニーズに沿った支援が困難なときがあるように思う。		・一人ひとりの生活習慣を尊重し、本人のペースや希望を聞きながらケアに活かす取り組みを実践したい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・理容・美容について、家族に協力して頂きながら行っている。		・今後とも家族の協力を得られるよう連携をとっていききたい。 ・個別的な趣味や経済的状況について配慮する必要がある。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・好みを聞いているが、嚥下困難な方病気との関係で食事への反映は注意と工夫が更に求められる。 ・食事を一緒に食べているので、食べやすい物・食べにくい物・調理の方法・好み等の把握はできている。		・食べたいものを用意したり、バイキングなどをして食事を楽しむ行事ができるようにしたい ・利用者様と”共に”という視点を意識し、ケアに活かしていきたい。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・お茶の時間に好きな飲み物を選んでいただけるよう支援している。 ・おやつについては一緒に買い物へ行く機会を作っている。 ・お酒は日常的には難しいが、行事やお正月・お盆に飲めるよう準備している。		・好みのものを状況に合わせて楽しめる支援を今後も工夫していきたい。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・表情や行動などからの排泄サインに合わせたトイレ誘導や、定時誘導を行うことで、気持ちよく排泄できるよう支援している。		・今後も排泄の失敗が減るようケアを行い、一人ひとりの誇りを失わないような関わりを心掛けていきたい。

麦の家・ぶどうの木()

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>・利用者に、午前・午後を選んで入浴して頂いている。</p> <p>・判断が難しい方については、より気持ちよく入浴していただける時間を職員で判断している。</p> <p>・曜日や時間帯の希望を聞くことは充分にできていない。</p>	<p>・職員の勤務体制もあるが、一人ひとりに入浴を楽しんでいただけるよう意識したケアを行っていききたい、その為には本人の希望を聞き、その反応に注目しながら行っていくことを心掛けたい。</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>・利用者が高齢であることを考慮し、休息の時間は充分取れるようにし、前日の睡眠状況を踏まえて、状況に応じたケアを行っている。</p> <p>・安眠できるよう居室の雰囲気・環境に気を付けている。</p>	<p>・今後も安眠や休息について、状況に応じた中でのケアを行っていききたい。</p>
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>・負担にならないよう配慮しながら、鴨の餌切りやおやつ作り、食器拭きなどの役割を担っていただいている。</p> <p>・買い物や散歩など、外出の機会が増えるように心掛けている。</p>	<p>・利用者の状況や職員の勤務状況によって、外出する機会を作ることが難しいが、日々の生活の中での楽しみや張り合いについて、職員全員で心掛けて取り組みたい。</p>
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>・本人がお金持って買い物することの大切さは理解しているが、数名の入居者を除いては難しい。</p> <p>・床屋に外出できる方については、支払いを本人で行っていただくよう見守りの支援を行っている。</p>	<p>・お金を持って外出することについては、家族に協力していただくことで可能となる場所があると思うので、家族と検討していききたい。</p>
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>・一人ひとりの希望に沿う事は難しいが、なるべく希望に沿えるよう、外出行事の計画や買い物に出かけられる支援をしている。</p> <p>・積雪もある土地柄、安全面等にも考える必要がある。</p>	<p>・外出する為にはどのように職員が連携をとっていくか(外出する職員、残る職員)など、一人ひとりの希望を叶える為の工夫や検討をしていきたい。</p>

麦の家・ぶどうの木()

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・年に1回善光寺への家族旅行を実践している。 ・また担当職員が中心となり、利用者との外食を楽しむことがある。 ・利用者の希望に沿えるよう家族に協力して頂き、外出できるよう支援している。		・普段行けない場所への外出は、家族に協力していただくことで実践できるように取り組みたい。 その事で本人と家族の関係を深めたい。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・居室で電話を管理・使用している方、また手紙のやり取りをされている方がおり、(電話を利用できる方は少ないが)使いたい方には使っていただけるようにしている。		・手紙のやり取りについて、絵手紙作りをプログラムとして行い、ご家族や交流している保育所・小学校などとやり取りできればよいと考えている。
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・馴染みの人が気軽に訪問できるように、出迎え方に配慮している。 ・管理者や職員が話に入ることで、本人を中心とした話題作りを心掛けている。		・訪問して頂いた人が居心地良く過ごせるよう雰囲気作り心掛けたり、利用者の居室等でゆっくり過ごせるよう配慮していきたい。 ・また、丁寧な対応を常に心掛けていきたい。
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束について各入居者への個別的な状況に即して学んでいる。 正しく理解するところまで至っていないが、身体拘束をしないケアについては職員全員で意識している。 また、家族とも相談している。		・全職員が身体拘束の正しい知識を正しく理解し、共通意識を持ち、ケアに取り組んでいきたい。
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・鍵をかけないことを心掛け、鍵をかけることの弊害を理解し、ケアに取り組んでいる。 ・鍵をかける場合は、その理由を家族へきちんと説明でき、家族と合意して実践している。		・日中の玄関の門の開放について、実践可能かどうか検討していきたい。

麦の家・ぶどうの木()

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>・利用者の所在や様子は必ず把握し、職員同士で情報共有を行っている。</p> <p>・居室で一人で過ごす場合、長時間一人きりにならないよう安全とくつろぎに配慮している。</p>		<p>・プライバシーに配慮するという意識を忘れず、安全面だけを優先したケアにならないように心掛けていきたい。</p>
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>・洗剤や入れ歯洗浄剤について、配慮の必要な方のみ棚の中にしまうようにしている。</p>		<p>・一人ひとりの状態に応じたケアを行い、危険を防ぐ取り組みをしていきたい。</p>
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>・心肺蘇生法・避難訓練を年に各1回行い、事故防止と共に緊急時の対応について知識を学んでいる。</p> <p>・一人ひとりの行動の特徴を把握し、それぞれに合わせた事故防止に取り組んでいる。</p>		<p>・緊急時に対応できる備えをすると共に、事故防止に日常的に取り組んでいきたい。</p> <p>・また一人ひとりの状態をアセスメントとして、職員全員で情報や連絡網を共有し、ケアの実践をしていきたい。</p>
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>・同上。</p>		<p>・同上。</p>
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>・避難訓練の実践と共に、地域の人々と災害時の対応についてマップ作成等も行っている。</p> <p>・所属する地域組織と災害時の協定を結んでいる。</p>		<p>・夜間の避難について、連絡経路の確認を行い、災害時に備えるよう取り組みたい。</p>
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	<p>・ホーム長や介護主任が中心となり、一人ひとりに起こり得るリスクについて説明しており、事故防止の対応方法をご家族と共有している。</p>		<p>・リスク管理と本人の感じる抑圧感について、双方を常に意識しながらケアを行い、家族との話し合いを充分に行っていきたい。</p>

麦の家・ぶどうの木()

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>・毎日のバイタル測定と共に、表情や行動などから体調の変化・異変の発見に努めている。</p> <p>・情報共有を確実にし、速やかな対応を行っている。</p>	<p>・体調の変化・異変について、その対応方法について情報共有を確実にしていきたい。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>・入居者全員の薬の内容については理解に至っていないが、各担当については確認できている。</p> <p>・入居者全員の服薬に関しては、主任と担当職員が総合的に常に把握できている。</p>	<p>・入居者がどのような疾患を持ち、どんな薬を使用しているかについて、入居者全員に対して確認と理解ができるよう目指したい。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>・便秘の原因やその影響について理解し、予防の為に水分補給や食物の工夫をしている。</p> <p>・腹部マッサージ・入浴による腹部の温めなどを行っているが、運動の実践は行っていない。</p>	<p>・水分や食事と共に、薬の服用を医師に相談しながら取り入れることで、便秘を予防していきたい。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>・口腔ケアは主に就床前に行っており、毎食後のケアについては個別に行っていない。</p>	<p>・残存歯のある方の歯磨きや、毎食後の口腔ケアを行えるようにしたい。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>・一人ひとりの状態や食事量・好みを考慮し、それらに応じて水分量・食事摂取量の為の支援を行っている。</p>	<p>・一人ひとりの状態や力に応じた支援をしていくと共に、好みや食習慣を大切に、食事に取り入れていきたい。</p> <p>・水分量の確保について、ゼリーなどで工夫して摂取できるようにしたい。</p>

麦の家・ぶどうの木()

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・感染症に対する予防や対応の取り組みは、かかりつけの診療所・麦の家看護師・介護職員の協力関係が作られている。		・感染症の知識や予防方法、対応方法について学んでいき、また職員が媒介とならないよう手洗い等意識し充分に行っていきたい。
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・食中毒に関する対応や知識は調理職員が中心となって学習会等に参加している。 ・全職員が関わる為、調理用具の衛生管理についての徹底を図るよう努めている。		・調理用具の衛生管理について徹底されないこともあり、その点について意見を出し合い実効できるようにしたい。
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・門の周りの草刈などの整備を、管理職員が中心となって行っている。 ・玄関前にマットを敷いて、転倒しないように配慮している。		・入居者・家族・近隣の人にとっての親しみやすさを意識した環境整備を行い、生活の安心につなげたい。
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・温度調節や日差しに配慮した空間作りを行っている。 ・花を飾ることで季節感を採り入れられるよう工夫している。 ・ホームの各居室には玄関がついており、1日に何回も外の空気に触れ、庭の散歩等行っている。		・病気などで居室から出られない方のための季節感を取り入れる工夫を今後も続けていきたい。
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・共同棟、の両方に畳のスペースがあり、いつでも休む事ができると共に、カーテンや障子を使ってスペースを区切ることができる。		・皆で過ごす時間と、一人で過ごす時間のバランスや状況の中で、一人ひとりの様子に合わせた過ごし方ができるように居場所を工夫したい。

麦の家・ぶどうの木()

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・居室には本人が使っていたものや馴染みのものを持ってきていただき、本人が居心地良く過ごせるような環境作りを行っている。</p>	<p>・今後も入居者・家族と話し合いながら継続して実行していきたい。</p>
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>・天候によるものの換気はこまめに行っている。 ・温度調節は居室の向き、入居者の状況によりこまめに対応している。</p>	<p>・エアコンの使いっぱなしによる冷えすぎや乾燥等に注意し、利用者にとって快適な環境となるよう対応していきたい。</p>
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>・玄関や居室から共同棟までの間に手すりを設置し、安全に移動ができるようにしてある。 ・雨天は玄関が滑りやすくなる為、マットを使用して安全に配慮している。</p>	<p>・安全面と自立した生活の双方を意識した環境作りを行ってきたい。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>・共同棟から居室への移動の際には、本人のわかる力に合わせた説明を行い、移動による混乱を防ぐよう支援している。</p>	<p>・場所が変わることや来客がある時に混乱しないよう、一人ひとりに合わせた伝え方をして支援していきたい。</p>
87	<p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>・敷地内のあちこちにベンチや椅子を置き、外へ出て景色をいつでも眺められるようにしている。</p>	<p>・中庭や裏庭に自由に出入られることを活かして、景色を楽しんだり活動できるよう支援していきたい。</p>

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所に つけること)
項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

麦の家・ぶどうの木()

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に をつけること)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている
		少しずつ増えている
		あまり増えていない
		全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が
		職員の2/3くらいが
		職員の1/3くらいが
		ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が
		家族等の2/3くらいが
		家族等の1/3くらいが
		ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

村社会の風土・生活様式について、もっと知り、それを利用者の日常生活介護のしかたに導入するのみならず、村の住民とのネットワークを更に深めてPRに取り組むと同時に、麦の家を利用している高齢者の姿を村の人々にアピールしていきたい。